……… 目　次 ………

表紙デザイン……友野　良一

美作の蝶について……道信　順……1

クロツバメ観察（３）……赤枝　一弘……2

おとしぶみ

あまのじゃく一考……松井　俊公……3

西大寺地方の稀蝶のその後の記録……赤枝　一弘……4

金甲山について……赤枝　一弘……4

ネキトンボの竜の口に於ける記録……赤枝　一弘……4

タイリクアカネ……道信　順……4

キチョウの初見……友野　良一……4

蝶２題……青野　孝昭……4

コムラサキの訪花……青野　孝昭……5

矢の峰とそこに棲む７月上旬の蝶……青野　孝昭……5

特集　私の現在……6

会　報……16

編集後記……18

すずむし

Vol.7 No.1

倉敷昆虫同好会
MAR.1957

美作の蝶について

道　信　　　順

会員の一人として津山市に在住していますので、作州の蝶、その他二三について分布資料ともなればと思い、あまり普通種でないと思われるものを列記してみます。

尚昭和三十年に美作博物同好会が生れ、作州の昆虫も次第に明らかになりつつあります。

1．ヒロオビミドリシジミ

Ⅶ．12．　1955　真庭勝山町、3♀、筆者採集

Ⅵ．22．　1956．真庭勝山町、1♂、5♀、筆者採集

Ⅷ．　8．　1956　苫田上斉原村、4♀、井上立氏採集

Ⅶ．12．　1955　採集品は片山豊八氏にお願して、直接九大江崎先生の手許まで持参していただき、同定していただきました。

2．ギフチョウ

Ⅳ．14．　1956　真庭勝山町、筆者採集3♂

Ⅳ．14．　1956　真庭勝山町、竹内幸氏採集2

Ⅳ．29．　1956　苫田苫田村、井上立氏採集1

この他に真庭川上村にても採集されています。食草は那岐連峰にもあるところから推して、分布も次第に明らかになると思われます。

3．ウラジャノメ

Ⅵ．24．　1950　英田東粟倉村、片山豊八氏採集1

岡山県からは未記録かも知れません。

4．キマダラモドキ

Ⅶ．25．　1956　苫田奥津村、井上立氏採集1

Ⅷ．　2．　1956　苫田苫田村、井上立氏採集1

5．オオヒカゲ

Ⅶ．28．　1956　苫田奥津村、井上立氏採集3

6．ヒメヒカゲ

Ⅶ．24．　1955　苫田上斉原村、筆者採集1

Ⅶ．　2．　1951　真庭川上、徳山録也氏採集

7．クロコノマチョウ

1955　年8月、津山市堀坂、中学生、本郷佐智子氏採集1　その後発見されません。以前英田郡作東町白水にも記録があります。

8．ウスイロヒョウモンモドキ

7・8月に中国山脈にかなり多産します。

9. シータテハ

あまり多くない。1955年には発生が多かったらしく学校夏休標本展でもかなり見られた。

10. ミヤマカラスシジミ

VII. 5. 1956 真庭川上村、井上立氏採集3

11. ウスイロオナガシジミ

VIII. 8. 1956 苫田上斉原村、井上立氏採集2

VII. 8. 1950 真庭川上、徳山鉄也氏採集

12. ダイセンシジミ

VIII. 8. 1956 苫田上斉原村、井上立氏採集2

13. ウラキンシジミ

VIII. ? 1940 英田東粟倉村、春名正之氏採集1

VIII. 10. 1950 真庭八束村、徳山氏採集

14. キマダラルリツバメ

VII. 8. 1956、VII. 15. 1956 苫田郡苫田村、井上立氏採集

15. クロツバメシジミ

IV. 24. 1943 津山市城山、筆者採集4

IV. 25. 1944 津山市城山、筆者採集2、その後、1945 年まで は見られましたが、以後気をつけているにもかかわらず見当りません。食草はあります。

16. ホシチャバネセセリ

VIII. 8. 1956 苫田苫田村、井上立氏採集

17. ギンイチモンジセセリ

VIII. 8. 1956 真庭八束村、井上立氏採集

VIII. 15. 1950 真庭川上、徳山鉄也氏採集

クロツバメ観察（3）

赤枝　一弘

自宅のクロツバメ

一昨年から自宅の二坪余りの物干の植木鉢にツメレンゲを移植しておいた。これはシャーレーの飼育では食草が不足するし又思わぬ失敗で幼虫を全滅さしたりし、野外飼育を思いたって数本植えた。しかしこの植物を鉢植えにするのはなかなかむつかしい事を知った。すなわち絶対に水をやりすぎてはならないし、梅雨時には雨にあわぬようにしてやらねばいけない。このためせっかく植えたツメレンゲも一本を残し全滅した。その一本は芽の状態で越冬し昨年成長した。それに昨年植えたした数本

のツメレンゲがあった。そして7月14日ふと自宅のツメレンゲを見るとクロツバメが発生していた。自宅へ時々クロツバメが飛来する事は知っていたがまさかこううまくいくとは思わなかった。わずか二坪ほどの物干の一角の数本のツメレンゲにまで産卵するとは、しかもおびただしい数、おそらく30頭ぐらい居るだろう。始めは野外飼育をしていたがそのすごい多喰いのためたちまちツメレンゲが全滅にひんしたのでシャーレーより逃亡し、とってもとっても駄目でついに蛹化したのは10頭たらずとなってしまった。この蛹は8月上旬に羽化した。

ベンケイ草を喰べさす試み

食草が不足するので同じ科に属するベンケイ草の葉を入れて見た。少しながら食べられていた。しかしツメレンゲがいっしょにあってはほとんど食べないので2頭の幼虫をベンケイ草のみ与えてみた。これは最終発生の幼虫であったがある程度成長し 2齢のまま大きくなりそれ以後脱皮せず他の幼虫が蛹化ー羽化した後もなお2齢幼虫として生存を続け11月8日までは確実に生きていた。やはりベンケイ草は食草にはならない。

共　食　い

共食いを一例であるが観察したので報告しておく。食草不足の最終齢幼虫が前蛹を食っているのを見た。しかし一部を喰ったのみ。

あまのじゃく一考

本誌Vol. 6, No. 4 の安江先生の文中に「アマンジヤク」に就いて色々と面白い説話がありましたが、先生は金亀虫の幼虫ではないかとされている様です。ところで私の郷里西蒂地方でも色々の伝説があります。1説は寓話で要約すると〔或所にトビの母子が住んでいました。ところが子トビはアマノジヤクで母トビが山へ行けと言うと川に出かけ川に行けと言うと山に行くのです。その内母トビが大病をして死ぬ前に母トビは山に葬ってもらおうと川に埋めてくれる様たのみました。然し悲しい子トビは母が言った通り川に葬ってしまいました。だから雨が降る前にトビは母トビが流されるのを悲しんで鳴くんだと言う事です。〕即ち日本版イソップです。他のは具体的な「虫」を対象としていますが、前記のトビの話を擬人化し悪い子供がこの「虫」にされたのだと言うのです。

ところでこの虫は何かと申しますと、庭先の直径3～5mm、深さ10～20 cmの穴の虫に住む〝コニワハンミョウ〟の幼虫です。その形態はグロテスクで、丁度安江先生のお話の通り腹背（第5腹節）が突出し、口器は大きく、腹部無脚で、背突起と尾節で穴を上下します。尚腐敗物を細糸等につけて入れ、しばらくすると動くが、こ

の時すばやく引き出すと虫が釣れます。子供達の夏に於ける遊びの一つでした。アマンジャクに就いて、新昆虫（Vol. 2〜Vol. 3?）に書かれていたのを読んだ事がある様に思います。以上は幼い頃を思い出すまま記した次第です。

（松井　俊公）

西大寺地方の稀蝶の その後の記録

アサギマダラ，従来の記録は西部丘陵に於ける目撃例があるのみであったが本年10月ついに採集された。西部丘陵、大ケ島、採集者大森。

モンキアゲハ，本種は本年6月筆者が竜の口で記録した。その後記録がなかったが今度は旧町内に於て久山氏が採集された。自宅へ産卵飛来したのを採集されたとの事、同じように当地方で1頭の記録しかないカラスアゲハが旧町内で取れている事と考え合わせ面白いと思う。

（赤枝　一弘）

金甲山について

本年10月金甲山へ行き採集会の時にも居た、大連で採集をやっていたという人に色々と話を聞いた。その人の話によれば従来南部では8月以前に採集記録がなく移動説まで出ているアサギマダラを6月に採ったという事である。話ぶりからして信用出来そうである。同好会の人の手で来年は採りたいものである。

なお当日は多くはなかったがアサギマダラは見られた。なお、その人の話によるとイシガキチョウを目撃した事もあるという事、これも小坂氏の味野の記録等を考えてみればまんざら否定出来ない事である。この点金甲山の開発は面白い。

（赤枝　一弘）

ネキトンボの竜の口に 於ける記録

ネキトンボ Sympetrum speciosum Oguma '55. 6. 23. 筆者採集。友野氏の御教示及日本昆虫図鑑により本種に間違いないと思われるので発表いたします。本種は県下に於ける確実な最初の記録であるよし、色々御教示くださいました友野氏と安東氏に感謝いたします。

（赤枝　一弘）

タイリクアカネ

安東瑞夫氏によれば岡山県に分布の可能性ありと成っていますが、筆者は1956年6月19日、苫田郡奥津村にて1♂を採集しました。

（追信　　順）

キチョウの初見

筆者は1957、I—27岡山市下石井の道路上で飛翔中のキチョウ1頭を初見した。なお当日は非常に暖く最高気温16.2°C。晴。微風だったので、モンシロチョウが見られるかも知れないと思い郊外の東山方面を回ってみたが蝶類は全然発見出来なかった。

（友野　良一）

蝶　2　題

1．ミヤマチャバネセセリ

この蝶は、岡山県にも広く分布していてよさそうに思えるけれど、記録された例をあまり見ないような気がする。終戦後間もなく台湾から引き上げられて倉敷へ寄られた楚南（現在南川）仁博先

生、当時大原農研に居られた深谷昌次先生などのお伴をして1947年6月8日神庭の滝へ訪れた時の印象は今だに、なお忘れられないが、その時の採集品の中に1頭のミヤマチャバネセセリがあった。極く最近迄標本箱の片隅にあったこの標本が不注意により虫害にあってしまったので、ギフチョウ幼虫を見つけて狂喜したり、クロヒカゲの乱舞に目をみはった当時を思い出しながら、消えたミヤマチャバネセセリの為にこゝに記録を残して置く。

2．スミナガシ

倉敷のような平地に、意外にも、この蝶が一風変った姿を見せて、我々を喜ばせたのは1949年の8月29日のこと。続いて30日には発見地の鶴形山で小野洋氏によって採集され、話題になった蝶であるが、あの時の記録以来当倉敷地方ではこの蝶に再びめぐり会うことが出来ない。山地性の蝶として当然のことながら、淋しいことではある。しかし、1955年8月8日には稍山地がかるけれど、倉敷と程遠からぬ総社市の豪渓に於て、はからずもこの蝶にめぐり会える幸運をつかんだ。朝のさわやかな空気の中で、渓流沿いの桜樹に静止した1頭のスミナガシは、なお、はっと私の心を動かさせる新鮮さと優しさを備えていた。

（青野　孝昭）

コ ム ラ サ キ の 訪 花

コムラサキが花に来ているのはかつて見たことがなかった。元々樹液に集まる蝶だろうが昨年8月5日、友野良一氏と豪渓を訪れた時、筆者は花期も終末に至ったかとみられるリョウブの花に1頭のコムラサキを見つけて奇異な感じを受けた。花上に静止し、或は少しばかり移動して吸蜜行動らしい仕草をしていたが10分程して筆者がその場を離れた時、なおコムラサキは花上にあった。

（青野　孝昭）

矢の峰とそこに棲む7月上旬の蝶

新見市北方に位置する矢の峰は、近年、キャンプの最適地として、或は草スキーに絶好の場所として急に脚光を浴び出した。県では今年度は観光施設を作りたいとも言っているが、頂上の草原は有名な千屋牛の放牧場ともなってのどかな風景は別天地の様相を呈する。

この矢の峰高原に足を踏入れた昆虫採集家は、1955年7月31日に登頂した小野洋、清水慶子両氏が恐らく最初であろう。その時の有様が矢の峰採集記として既に小野氏により本誌に紹介されたのは周知の通り。ホシチャバネセセリやアオバセセリの記録に採集地としても有望視されたこの山へ、昨年は風早、小野、友野、若林の諸氏と共に筆者も訪れることが出来た。時期は7月8日であり、小野、清水両氏の試みられた7月31日より2旬程早い。筆者の受けた山相、樹相の印象は平凡ながら、道後山のようなスケールに程遠いとは言え、頂上の眺望と草原は見事であった。

この時期の蝶として特に目立ったのはホシミスジとウラギンヒョウモンが多産することであった。前者は中腹に生活し、後者は頂上の草原に集っていた。面白いことに小野氏が7月31日に度々出会ったコミスジ、イチモンジチョウに筆者は一度もめぐり会えなかった。しかも、頂上に沢山いたウラギンヒョウモンが小野氏の採集記には一度も出て来ない。こうしてみると、一つの山を舞台としても、そこに棲む蝶類の世代が如何に激しく流転しているかが痛感される。

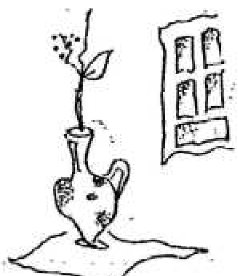
7月上旬と言う時期よりみたこの山は、全体的に蝶相は平凡で、ホシミスジ、ウラギンヒョウモ

ンの外には個体数も少なく、矢の峰を好採集地として推するにはなお、ちゅう著するものを感じたが参考迄に筆者が当日採集或は目撃し得た蝶を次に列記してみる。

ヘリグロチャバネセセリ、キマダラセセリ、オオチャバネセセリ、キアゲハ、キチョウ、モンシロチョウ、スジグロシロチョウ、ミズイロオナガシジミ、ベニシジミ、ツバメシジミ、ミドリヒョウモン、ウラギンヒョウモン、ホシミスジ、ルリタテハ、ヒメウラナミジャノメ、ウラナミジャノメ、ヒカゲチョウ、キマダラヒカゲ、ヒメジャノメ。

（青野　孝昭）

特集　私の現在



雄大な時限の動きの中で私達は瞬間の存在に過ぎない。過去の長大さと未来の無限を想う時、奇しくも同時代に生き、一つ目的に結ばれたお互の巡り合せに、私達は新しい感動を覚える。年齢、境遇を超越して持ち寄った「私の現在」が、どうか現在の充実と未来の発展の為に、私達自身にとっても、倉敷昆虫同好会にとっても、有意義であったと言われたいものである。

名士と昆虫学
ー倉敷と東京の生活からー

深谷　昌次

私は倉敷という文化都市に戦前、戦後のあわただしい8年間を過したが、その間多くのいわゆる名士といわれる方々にお目にかかる機会に恵まれた。それは私のいた研究所が、ただの研究機関ではなく大原さんという文化人が責任者になっておられたせいだと思う。印象に残るのは、文部大臣の森戸さんが私の研究室にこられニカメイチュウの話を熱心に聞いて下さったことである。もっとも後でわかったことだが森戸さんは名うての釣師とか、魚の餌に「こいつはいける」とでもお思いになったせいかも知れない。

私は昭和26年に現在の研究所に移ったが、ここ2・3年来珍客の御来訪が多く大いに刺激を受けている。一昨年の秋には「生命の起源」で有名なオパーリン教官が私の研究室にやってこられた。オパーリンとかスターリンという名は歴史上の人物の名でとても私などお目にかかれる人だとは思っていなかったが、石井博士のアズキゾウムシやわれわれのニカメイチュウの人工培養について詳しく質問されたのには恐れ入った。昆虫生理学の最先端をゆかれるアメリカ一流の昆虫生理学者フレンケル博士やドイツの有名な生化学者ブーテナント博士の学術講演には全く頭の下る思いがした。特異の印象を受けたのは天皇陛下が、昨年の10月15日わが農技研にお出でになり私が害虫標本の御説明を申し上げた時のことである。名士

といっては失礼かも知れないが、私が今までにお目にかかった昆虫学者ならぬ名士の中では陛下が一番専門的なまた勘所に触れた質問をされたと思う。「やたら農薬をまくと天敵がへるだろうから、そうしたら困ったことにならないの」これは全く専門的な陛下のお言葉であった。

（農技研昆虫科長　農博一本会顧問一）

思っておること

佐藤　清明

● 阿哲郡哲多町にヒメボタルの群棲地があって、これは天然記念物に指定してある。夏の夜、一斉に飛び立つのは壮観であるが、しかしこれはみな雄で、雌はいまだにここでは発見されていない。何とかしてこれを精査してみたいと思っておる。

● 昨年京都の上野俊一氏、高知の石川重治郎氏等を案内して共に備北の洞内を廻ったところが、ガロアムシが県下にもおることが判った。しかし採集したものは残念にも種名未詳で、誰も取り合わぬようである。これは何とかしたいと思っておる。

● 岐阜蝶の産地は新山一帯と湯原のが知れており、那岐山では幼虫が採られただけであった。後山と神庭滝とにも分布する可能性があるのでこれ等をも少し熱心に調査して、出来れば全部を天然記念物に指定したいと思っておる。

● 源氏蛍の群集地としては邑久郡に天王蛍がおったが今は絶滅に瀕した。しかしこれに代って那岐山系の滝川ホタルと苫田郡の郷の源氏蛍とを天然記念物に指定しておるが、滝川ホタルは意外に分布が広く、郷のはまた意外に個体数が多い。盛時は壮観であるが案外に知る人が少いので大いに宣伝して観光に利したいと思っておる。

（ノートルダム清心女子大教授　天然記念物指定委員一本会顧問一）

安江　安宣

丁度いまから5年前に深谷昌次博士は本誌会報第1号に「アマチュア万才」という一文を草されいるが、年来ますますこの感は強くなっていくのは全くお世辞ではない。学窓にある若い諸君は勿論のこと、社会人としてそれぞれ重要なお仕事を持たれながら、よくこれだけの立派な、鋭い観察ができるものだと昆虫で飯をくっている私共がかえって啓発されるくらいである。なにも専門家がたじたじになるような大きな論文でなくてもよい。一寸した観察でもそれが真実にもとづくものであれば、それからうけるヒントは想像されないくらいあるにちがいない。もっとも17年くらい以前になるが当時の昆虫界を騒した宮原某君のように単なる功名心からありもしないことを書きまくるのは勿論許せないことだが。

私は現在マダラテントウ類2種の本州における分布調査に手をつけてから早や10年ちかくになってしまい我れながらスローモー振りにいささかあきれかえるが、さてやってみると案外まだ分らないことや色々派生的に面白い事態に発展しそうなので目下のところどの辺で結末がつくか見当はつかない。テントウムシ採集のついでに僻地のあ

まり虫屋が行きそうでない場所にいったときにはなるべく他の昆虫類もとってくることにしている。昨年夏、隠岐島に採集した結果を整理してみるとそのとき唯1匹だけとったシルビヤシジミZizina otis emelinaが本州日本海側における分布の最北限となったことや、兵庫県篠山の南にある500米の高原のジヤガイモ畑のなかでとったグンバイトンボPlatycnemis foliacea Sasakii が日本で7番目の新産地になったことはニジュウヤホシ採集の全く思いがけない副産物というわけである。

(岡大助教授一本会顧問一)

広瀬　　義躬

一年の浪人生活とその前後の空白で、多少〃虫馬鹿〃(こんな言葉はないでしょうが)気味だった私も、昨年末から少しファイトが湧いて来て、今年はなにかまとまった仕事をやりたいと希望に燃えています。

今年の計画としては、先ず昨年から引続き白水隆先生の御指導の下に、脚部構造特に中脚、後脚の表面に生えている棘の排列状態から、ヒヨウモンチヨウ類をいくつかの系統に分割する仕事に力をそそぎます。最近Argynnisの類はかなり細分された様ですから、そのような分類の結果と照合すれば、興味ある事実が引き出されるのではないかと思います。更に将来は、他の蝶にもこうした観点から仕事を進めてみたいと柄にもない大それた考えを持っています。

この仕事と平行して同じ九大教養部の中井君と共同で福岡付近のヒカゲチヨウとクロヒカゲなどの蝶の棲分けの調査に着手したいと考えています。

又蝶のテリトリーの研究も従来とは異った観点から、これは倉敷で休暇を利用して、弟と少しずつやってみる予定。

その他、7月には鳥取の小林さん達のgroupと一緒に中国山脈の処女地域(岡山、鳥取県境)を足にまかせて歩こうと意気込んでいます(どなたか一緒に行きませんか)。

こう並べてみると、どうも大変ですが、少しずつでも良いから、出来る丈努力してみようと思うのです。

一方、たまっていたものも、吐き出したくなって来たので、また下らないことを書き出すでしょう。

どうか会員諸賢の御協力と御指導の程を御願い致します。

近藤　　光宏

しばらく御無沙汰していました。皆様と会誌を通じて、野山に親んでまいりましたのも、何時の日か、過去の夢と化して、春のない冬眠を続けてようやく、その居眠りにも飽きてまいりました。それというのも、こうした地理的環境が、あるいは、他の優秀な会の推進者たる皆様方の出現によってか、又は、自分自身の中に、そうした、消極的な因子が芽生えたものか、ともすれば、会誌から常に疎遠になりつつ年を改めて1957年を迎えました。ここに、これをよき契機として、何もかも白紙の状態から再出発することを先ず第一の抱負といたします。旧同志の皆様には、よろしくお願い申し上げる次第です。先ず、ほこりのたまった採集用具の手入れやら、資料やら、その他、フィールドの用意、暖かくなってからの計画に、楽しい思いを再起することに、冬から春を迎える生

物の如く、喜びと希望を抱くのであります。

守安　　義光

私は現在倉敷市役所に勤務している地方公務員です。そして、現在日本大学通信教育学部にて公認会計士を目標に勉学しているものです。又、東京農大の通信教育で農業科にも入って勉強しています。私は動物や昆虫は中学生のときから好きですので倉敷昆虫同好会へ入会して一生懸命勉学したく思っています。皆様よろしく御指導御鞭撻下さいますよう。

大塚　　　勲

私が「すずむし」の仲間に入れて頂いたのは確か1昨年の春、私が丁度上京中で20日許りの滞在中であったので郵便物を家より廻送していた関係上、東京の宿で初めて「すずむし」にお目にかかった訳ですがあれから満2年、月日のたつのは早いものです。

正月早々季節風の吹きまくる樋ケ島に10日許り出張して船に酔ってフラフラになって帰宅してみると「すずむし」が届いていましたが最近の「すずむし」は真に立派な出来栄えで会員の一人として心よりお慶び申し上げます。

処でアンケートとしまして「私の現在」というものを書く様にとのことで、締切りは2月20日ですが当地では2月下旬よりシーズンに入り忙しくなりますのでイエバエのウロウロする日当りのよい縁側で早速書くことにしました。

現在私が真剣に取り組んでいることは阿蘇五ケ荘等所謂中部九州の蝶相及び蝶類生活史の究明です。日本では大部分の蝶の食草が判明してしまいましたがそれは一部の地方丈であって他の地方は不明であったり又同じものを食べているとも限りません。特に九州中部の蝶類などそうであっていろいろ問題が多い様です。白水隆先生は「モンシロチョウ」すら本当に判っていないと申されていますが真に至言であって「アゲハ」や「モンシロチョウ」の発生回数の究明に手を焼いているのは私丈ではない様に思います。

現在過去2年間の野外における観察記録より熊本市付近の蝶類の発生回数をまとめていますが発生回数の究明は飼育を併行しなければどうも不可能の様です。

蝶類の外に阿蘇のコガネムシ類の調査にも手をつけていますが近く面白いニュースをお届けすることが出来る様です。与えられた紙数もどうやら尽きた様ですからここらで失礼しますが今後共宜しくお願い致します。

黒田　　祐一

ここ数年間の研究生活の為昆虫からは遠ざかっていますので、唯昆虫関係の雑誌を見て憧れたり、残念がってみたりの生活です。いまだに此の様な調子なので余程虫につかれているのだなとわれながら感心する事があります。中学生時代互に熱心にやっていた友達が上の学校に入ると同時に思い切ってしまったのに自分一人何時までもやっているのを見て、まだしているのかと半ば感心、半ば嘲笑したものです。

川上郡東川村で採集したヤノトラカミキリなど取持つ縁で大林一夫氏や林匡夫氏を始めとして次で水戸野先生等と親交を始め専ら天牛類に興味を

もって暇と金さえあれば大山、毘遮、剣山、神庭、金山とよく出かけたものです。始めは蒐集に戦災で一切を焼失してからは生態方面に興味を持つ様になりましたが、公にしたものはタカサゴシロカミキリに関するものだけで幾つかの研究材料を放置したまま私の本職の研究生活に入り、次第に疎遠になってしまいました。昭和27年に印度、パキスタンでの採集を最後に網を持つ機会もなくなりましたが、昨年10月から研究室を出てこちらに来ましたので阿讃山麓を往診の為にオートバイで走らせ毎日の様に剣山を南遥かに眺める様になり、今夏こそはと腕を鳴らしている次第です。尚今まで死蔵していた天牛の幼虫や蛹の標本の記載なども暇をみて書いてみたいとも思って居ります。

平田　　信夫

カミキリムシをつついてもう何年になりましようか。かれこれ十五年、歩くことだけは自分でも感心するぐらい、然しまだ何一つとして纏まつたものはない。さりとて見切りをつけて足を洗えそうにもない。この調子でカミキリを追って終りそうだ。岡山に帰ってから四年、嘗ての好採集地を訪ねて見ても全く昔日の面影はなく、或は湖底に沈み、或は開墾されて麦畠といった調子。我が活躍の天地も狭くなったものと感慨一しお、といって東北、北海道あたりまで足を伸ばす元気は更にない。思い直して猫の額ほどの県内を、新しい採集地を求めてほつつき歩く以外にはなかろう。然しまたその気になって見れば面白い事もあるものらしい。かつては一顧も与えていなかった場所で珍種を得たり、思わぬ機会に生態の一部を見せられたり、やってみれば仲々それなりに興味は尽きない。今後はどちらかと言えば有名な所は遠慮し、名もない所を足にまかせて広く歩き、言わば分布資料集めに進みたい。これが現在の私の希望である。昆虫分布の問題は、そう簡単に解明でき相にない。他の研究と同じように、深入りすればする程分らなくなるものらしい。気象条件だけで決めるのは無理のようだし、地形だけにも頼れない、まして狭い範囲の分布を緯度だけで片づけるのは大胆に過ぎよう。思いもつかない色々の要素の綜合支配、大自然の神の心の深さに唯々畏敬の念を抱くのみ。自然の深奥に一歩なりとも近づくべく、謙虚に黙々と採集を続けてゆきたい気持で一ぱいである。

赤枝　　一弘

昨年から大学生となり、もはや高校時代の様に午後から近所の山へ登ったりする事が不可能となった。従って今後は地元の調査はあまり出来ない。昨年一年の「すずむし」を撮返って見る時、数々の採集会も開かれ一昨年より遥かに立派であり投稿者のはばも増えた。すなわち一昨年は一度も投稿される事のなかった青野氏の昨年の活躍その他の方々も大いに活動され又安東氏の非常に立派な岡山県としては最初の蜻蛉目録、又ヒロオビミドリの発見等まったく目ざましいと言える。しかしながらあまりにも分布に走りすぎている。本同好会の最大の投稿者の広瀬氏が投稿されなくなった「すずむし」はまったく始めから終りまで分布である。社会人の方には社会的制約のためにまとまった研究が出来ないのはもっともである。我々学生が活動せねばならぬのだが、小野氏が岡大在学中に行われた「誘蛾灯とガムシの研究」等を見る時まったく頭が下る。

しかし僕自身として昆虫はすなわち第一義のものであり、まったく本質的に好きである。しかしその他の種々の事もやって見たい。例えば合唱である。とにかく近ごろの様に連日家に帰るのが6時すぎではまったく何も出来ない。さて本年であるが昨年は虫友のD君が浪人したため採集に行く同行者を失い途方にくれたが幸い今度入会された大森君と知り合った。彼は筆者が西部丘陵と名づけたすなわち西大寺ではアサギマダラ、オナガアゲハの唯一の記録を持つ山の住人で地理的に大いにめぐまれている。又9日には同じく同好会で同じ吉井川沿岸の邑久高の秋山君と知りあいいっしょに採集にも行った。本年はこの二人と浪人中のD君を加えさらに中学生等ともいっしょに採集に行こうとはりきっている。もう一つの計画はすずむしの別冊としてでも我々の手で東備前の蝶目録を製作したいと思っている。もう一つの念願はクロツバメシジミの生活史の完成である。新春を待とう。

水野　弘造

○受験勉強から解放されてホッとしたトタンに宇治なる所へ閉じ込められたのが去年の四月。下宿が宇治川の河畔なのを幸、7月迄二日に一度は川辺をぶらついてアオゴミムシ以下ゴミの普通種ばかりをうんと仕入れたのに気を良くしてゴミをつついてみる決心をしている。

○京大ともなれば全国から集まった虫仲間にも相当頭が変になったのも居た。奈良のMi.君、蝶や天牛や蜻蛉はとっくの昔に卒業して今や糞虫に熱中、特にその生活史究明の為毎日牛糞拾いをやるという程で、この感化を受けた為か糞虫にも異常な興味を覚え、去年春宇治は黄檗山の池の畔の犬の糞を拡げてチビコエンマなる珍種を拾ったのを手初めに、追後山の馬糞中よりミヤマダイコク、京都牛尾山ではミドリセンチ等、昨年は獣糞散布を相当実行、今年は奈良方面にも遠征して珍品をしこたま仕入れんと大いに期待している。

○乱獲の名所京阪神に飛び込み蝶の乱獲を目の前に見るや小生如きオトナシイ採集家には蝶を集めるのにいささか嫌気がさし、以前程蝶の魅力を感じなくなったが、全然やめたわけではない。去年の7月、大山で、乱獲者に屈するのも馬鹿らしいと財布の底をはたいた四本竿を背に、小生生れて初めてのダイセンシジミを手にしたのは今思い出しても胸がすく。今年も一あばれしたいとは思っているが、決して乱獲はしないから誤解なく。

○東京から来たMo.君、蝶もやらずにいきなり蛾を集め出したという変り者だけに、周囲に及ぼす影響も大きく、小生も今年から蛾もつついてみようかという気になってしまった。ただ現在は未だ全然やっていないから将来に期待をかけておくことにする。

宮尾　幹郎

僕がちょうの採集を始めたのは、一昨年の夏休みからである。その頃近所の一つ年上のK君にさそわれて、連島のある寺の境内にちょうの採集に好奇心から行ってみた。彼は僕の家へ呼びに来た時、一間ほどある黒竹のぼうを持ってかたから三角ケースをたらしていた。僕は最初はその棒が何であるか知らなかった。目的地へ着くまで何であるか僕は聞かなかった。やがて寺の近くに来るとカラスアゲハがとんでいた。彼は自転車からすぐ下りて棒の先から黒い金属を出して捕虫網を組立

てその蝶を見事に採集した。始めてそれが捕虫網であることがわかった。それに僕の住んでいる所ではアゲハチョウと、春にとびまわるモンシロチョウしか見たことがないので、カラスアゲハの美しさに驚いた。その時僕は始めてちようの採集に心をひかれた。それからはたびたび彼と一緒に自転車で付近の山々を乗りまわった。もちろんその時は僕も採集道具を買っていた。道具と言っても捕虫網と三角ケースとピンセットと展し板位のものである。ある時はカメラを持って行って楽しい写真を写したこともあった。またある時はヘビが出て来て逃げたり、小川の冷めたい水をのんだことなどを想い出す。しかし昨年は彼は高校への受験勉強で一回も採集へ行かなかった。昨年の秋ふとしたことから作文集を読んでいたら、その中に一つチョウの採集の楽しそうな鳥取県の中学生の文を読んでから、倉敷昆虫同好会へ入会したわけである。せっかく立派な会へ入会したが一つ心配なことがある。それは「すずむし」を読んでいると立派な記録が出ているが、僕は研究もしてないし採集したものも展しに失敗してあまり無い。少しもないと言った方がよいかもしれない。それから採集会も行ったことがないので、大人や高校生等ばかり出席していて中学生が少いのでおもしろくないのではないかと思うことである。

半田山と私

松井　俊公

岡山に来たのは1952年の春からです。丁度気候も快適で、不案内ながら最初に親しくなったのが半田山です。今迄住みなれた草木生い茂る山里とは大変な相違です。赤松と僅かなブナカシ類の混生林です。「こんな所に昆虫なんて居ないだろう‥‥」と、半ば諦らめながらそれでもほとんど日参の状態でした。

一年間は夢中に過ぎて色々集めました。時には面白いのもあったけれど貧弱なものでした。それでも私を喜ばせたのは大きな〃シモフリコメツキ〃や〃ウバタマムシ〃の豊産する事でした。次第に「虫は相当居る」と言う確信を持って幾度も山を訪ねました。すると様々な虫達の刻々の営みが強く感じられます。「あの虫はこの間はアラカシの葉を盛んに食べていたが今日は違う。アベマキの葉を食べてる。雌がアラカシの新梢に産卵をしている。小さなふくらみが出来たと見ると幼虫がいる。もうこんなに大きくなっている。オヤ葉上のゴミが動いたぞ、足を盛んに動かして一生懸命だな、ハテ長い鼻？を持ってるぞ。コリヤ象虫だ。このちび助が‥‥」。亦其時々の虫達の推移が手に取る様に分かり、然も幾回訪ずれても新しい虫を知り喜びを新たにしてくれます。中でも最も私を驚かせたのは〃グミシギゾウ〃です。ナワシログミの上で1度に数拾否数百頭もの生活を見たのですから、恐らくこの様な沢山の群集活動を目撃する機会はそうないでしょう。其れが「駄目だ」と思っていた半田山です。種類の点でも、〃ホオジロアシナガゾウ・タカサゴシロカミキリ・アサギマダラ・ウラゴマダラ‥‥アラカシを食う奇異な幼虫がウコンカギバの幼虫であり、アラカシは新しい食草である事を知りました（未発表）、等々。半田山は私の虫に対する態度を大きく変えています。思うに、遠くに出かける事も大事ですが、亦身近を幾度も幾度も訪う事は更に大切で、大きな収穫があると思います。こんな収穫の結晶

が私達の「すずむし」である様育てたいと思います。

思いでの肥つぼ

若林　正史

僕が昆虫採集をやりだしたのは小六年の時からです。水野君に興をそそられて始めたのでした。その年というものはすごく熱心でした。そこで熱心すぎてやった失敗談をここに紹介します。台風が三日続いて吹きまくり、採集に出かけられず腕がむずむずしていた、そのあくる日、からりと晴れました。さっ速ネットをかついで出かけました。田も畑も水びたしで長ぐつでジャブジャブやりながら行っておりますと、向こうに見かけぬ蝶がひらひらとしました。それッと足をふみ出したところ、ザブッと大きな水たまりにはまり。ズブズブッと体がしずみだすので必死で向こう岸へ手をかけました。さいわいこしまでですんだのですが下から変なスッパイような悪臭がしてくるのです。何と水たまりと思ったのは肥つぼだったのです！だから足をぬくにもなかなか力がいりました。やっとぬいて上ると長ぐつの中がクソで一杯です。どうしていいかわからず、しばらくぼう然と立ってました。それでもやっぱり帰らねばなりません。まず長ぐつのクソを出して又はいてジャブジャブいわしながら歩き出しました。家まで誰にも会わなければよいが思いながらクソのポテポテたれるズボンをひこずって歩いて行くと、向こうの角から女工さんが四・五人キャーキャーいいながら曲がって来ました。ぼくは思わずハッタと停まってしまいました。「このまま歩いて行くと女工に顔をまじまじと見られるだろう、アーぼくはどうしょう」泣こうに泣けず、まず側のわらぐろへかくれました。（あなただったらこの時どうしますか？）女工さんの声が次第に近づいて来ます。わらぐろの10 m位前に「来たなー」と思った時、ぼくはわらぐろからパッと飛びだしました。そして「野つぼへ落ちター」とわめきながら女工のへりをかけぬけました。女工はびっくりして側の田んぼへ飛びおりてました。家へ着きました。ぼくの姿を見た母の顔！ぼくの顔（想像して下さい）。これで野つぼだけはこりてあれ以来落ちませんが、皆さんも落ちないように。

清水　慶子

覚えていた昆虫の名前も大分忘れ「すずむし」がとどくと、「ああ私は虫のことを勉強しているんだったなあ」と思う事もあります。そして中を見ても私には分からない昆虫が多くでてきます。それらを書かれた会員の方の知識と私のそれをくらべて大きな差のある事を痛感する次第です。盛んに採集をやっていた学生の頃を考えて見ると同好の方が大勢おられたのでしらずしらず一生懸命やっていたのですが現在私の職場では同じ趣味の人は見つからず、かつての友達は散りじりばらばらで話をする事もないくらいです。又年を取ると採集に行く元気も勇気も以前にくらべてなくなります。「大人のくせに遊びまわっていると思われはしないか」とか「昆虫のことは何も知らないのに」又「今度の採集会には女の人はいないんじゃあないかな」等いろいろな雑念がわいてきて楽しみに採集会を待っていてもいざというと止めてしまいます。結局私が意志薄弱なためでしょう。で

も今年は三年間分を一度に勉強する位頑張って見ようと思っています。剣山・大山・那岐山などの楽しい採集旅行、めずらしい昆虫を網に入れた時の喜びの気持を思いだし再び学生の頃の気持になり採集会にも出来るだけ参加しようと考えています。そして会員の皆様に少しでも近づいて行けるよう努力する覚悟です。

小野　洋

例年のことながら、とにかく春になるのが待遠しくてなりません。実現することは少いにしても、夢や希望にささやかながら輝きを与えてくれるし、野外は暖かな光りで満たされいろいろな数多くの素晴らしいものを運んでくれるといったこともありますが、とりわけ楽しいのは、山野でいつもの虫達の連中におめにかかることです。今年は目新しい諸君にも大いにおめにかかりたいところですが‥‥。

小生目下のところ最も深刻な悩みは、比較的自由になる時間さえ、なかなかつくりにくいということです。ウィークディは勿論の事、日曜日でも仕事で忙殺されることがかなりあるといった始末です。サラリーマンなら誰しもと思いますが、当面の課題は、保健的観点からの許容範囲内で、しかも教師的良心をきずつけない程度で、いかにして効果的にツツク時間をつくり出すかということです。今年あたり、もうそろそろそのへんのテクニック？を会得してもいい頃だとも思われるのですが‥‥‥。

さて相変らず、甲虫群に対する興味を維持し続けており、殊に今年はできればハムシの連中の中ツツハムシの仲間について、いささかでもツツキたいと思ってはいますが、何分先ほどの課題を除々にでも解決することが先決のようです。とにかく皆さん今年も手足を伸して楽しもうではありませんか。

風早　保男

総社東中学校教員。同好会２年生。

小学校５年生になる長男が３年生の夏休に昆虫採集をしてその同定を依頼されて、大いに弱ってから勉強する気になりました。従って長男とあまり程度のちがわないかけ出しです。

昨年１年蝶とカミキリムシを主に追いかけて、夏休後、青野氏の協力をいただいて学校の標本を15箱ばかりつくりました。

今年はやはり青野氏の指導と協力のもとに生徒と共に学校の標本を出来るだけ充実したいと思っています。何とかしてこの地方のものだけは主な目や科のものだけでも集めて見たいと思っています。

個人としては私の地方の果樹の害虫を少し調べたいとも思っています。しかし環境条件の如何によってはどのような生活史をたどるか今から予測することは出来ません。

青野　孝昭

新春早々流行性感冒にかかって、今年は本当に参ってしまった。生来の胃弱も手伝って、10日程学校を休み、補習授業の後など、ウオッカをあふって景気の良い風早先生やその他の方が羨しく思えます。現在教室ではピアノの前にすわり、レコードを鑑賞し、音楽を語ると言った生活を送っ

ていますが、昆虫のことも忘れられません。元々植物学に御造詣の深い風早先生が、教組書記長の職から現場へ復帰され、最近は昆虫にも非常な興味を抱かれ御活躍なさるので、大いに刺激されます。しかし私にとって昆虫いじりは、音楽に対する態度と同じように、心の趣く儘に従ってゆく趣味の世界を出るものでなく、自由な気楽さは満喫出来ても、厳しさを欠く物足りなさを感じます。昆虫を通して自然の神秘に触れることも、ピアノを通して偉大な音楽家の魂に接することも、それが強い印象を私に与えている限り、いずれからも手を引くことは耐え難い。そのことが二兎を追う者の悲哀を感じさせるのかも知れません。現在のあらゆる点に貧弱を感ずる私は、将来に大きな希望を抱き、趣味の分野に於ても、本当に皆様と手をとり合って同好の道を歩んで行けるよう、準備と勉強の為に、無駄な労力は極力はぶいて行きたい気持を持ちます。次に今年私が実行したく思っている事柄を簡単に、

①八ヶ岳方面へ採集旅行すること。愛知県の船越君に誘って頂いているし、風早先生や小野君なども行かれる予定なので、今から心楽しい。

②岡山県のSyrphydaeを調べてみること。やる人が少いようですが岡山にDiptera専門の小泉先生がいらっしゃるので心強い。

③岡山県の蝶相を究明する為の調査。

④休暇を利用して岡大大原農研図書館の昆虫雑誌を出来るだけ、沢山読むこと。しかし乱視がひどくなったり、胃が悪くなったりしない程度に。

蜻蛉と蚊の話

友野　良一

現在私は会社の仕事机の前に座り、この原稿を書いています（勤務時間中なり）。今年でサラリーマン生活も四年目、山陽放送KK総務部に勤めております。年齢は23歳、身長は173cmで良く育ちましたが、横の発育不良で体重55kgと少々軽すぎる様です。

昨年夏からトンボ学を専攻する事を決意し今年こそ！とハリキッテいました。ところが先日会社の友達に「オ前ガ蜻蛉オ取ルカラ倉敷ニワ日本脳炎が多インダ」と言われて少々気が咎めています。さりとて採るのを止める訳にもいかないし殺人ホー助の疑をかけられるのも嫌ですから、皆さんの中で誰か「蚊」を専門に取ってくれないかナァ等と虫のいい事を考えています。

今は完全にシーズンoff. 甲虫屋さんの様に石や木の皮の下を捜しても蜻蛉はいないので、目下アルバイトに精を出しており、ラジオを作ったり、ピアノをヒイたり、バイオリンをヒイたり、カゼをヒイたり、大変多忙な毎日を過しています。

理化学器機　光学器機
度量衡　計量器　採集用具
平田光学器機店
岡山市中之町二七
電話　④局　5474

会　　報

＝前回アンケートの集計結果＝

※ 会則について

4条D項案は賛成とするもの21票

4条D項案は不賛成とするもの0票

以上の結果により4条D項案は、新会則として決定されました。

※ 4月採集会について

7日木野山方面を希望するもの5票

14日神庭方面を希望するもの 8票

希望なしとするもの及び無記入 8票

以上の結果により4月採集会は4月14日神庭方面と決定されました。

本会宛寄贈誌目録

紹介もれの同好会誌及び、今年の新着雑誌を紹介致します。

虫界速報33：1954，蟻水社 B．5（12頁）

会報8（1）：1955，大和郡山草木虫魚の会 B．5（52頁）

LUPE12：1956，大阪府立北野高校生物研究室 B．5（80頁）

駿河の昆虫13：1956，静岡昆虫同好会 B．5（24頁）

エントモフィリア復7：1956，虫聖会（高島春雄先生）

講座制と分類学の振興，生物科学別刷：1956，高島春雄先生

昆虫科学4：1956，昆虫団体研究会 B．5（79頁）

INSECT7（2）：1956，昆虫愛好会 B．5（24頁）

〃 7（3・4）：1956， 〃 （94頁）

New Insect1（1）：1957，北信昆虫同好会 B．5（60頁）

お便り

◎石原保先生から

前略

「すずむし」御恵送に与り有難く厚く御礼申上げます。

永く大切に研究室に保存して参考にさせて頂きます。

立派なものに発展しつつある貴会に敬意を表しつつ一筆御礼のみ申上げます。

二月一日

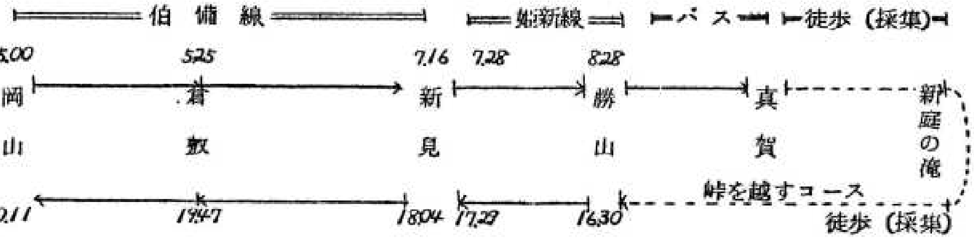
※深谷先生高知へ御出張

2月26日、顧問の先生方の中でも最も遠くの東京からいつも御声援いただいている。そして倉敷の方々にはおなじみの深谷昌次先生が高知での農林省中国・四国ブロック会議へ御出張の途中岡山へ立寄られました。急なことで、会員の皆様にもお知らせがゆきとどきませず、又幹事も繁忙を極め、いろいろな都合で、遂に御面会もできませず残念でした。本会から友野氏がただ一人お話しできたようでしたがそれも7分間で本当に御挨拶だけしかできなかったとのことでした。

＝4月の"神庭の滝"採集会のお知らせ＝

いよいよ4月の採集会が近づいて来ました。場所も神庭の滝と決定しましたので、日程をお知らせするついでに少しばかり御紹介をしておきます。

4月14日



神庭の滝は中国地方第一の瀑布で高さ110米、幅9米のなかなか立派なもの。渓水と、繁茂した樹林とが素晴らしい雰囲気をかもし出している。ここは勝山駅の北西5粁ばかりのところで、途中も変化に富み、よほど人間くさくなったとはいえ、まだまだ、採集に面白く、徒歩でも好適なコース。とりわけ新緑の頃は、渓谷の美はいやがうえにもまし、したたるばかりの葉かげ、渓水の上に、うごめき、飛びかう昆虫達の姿は数多く、今迄にここで発見せられた珍品も少くない。比較的大型のものでは珍品の域には入らないが、よく人に知られているものでは、ムカシトンボがあるし、1947年には途中の峠で、ギフチョウの幼虫も採集されており、その他ゼフイルスの珍品、甲虫、双翅類などの記録も沢山ある。ギフチョウは真賀付近でも1953年に成虫が採集されている。

4月のここでの採集会は、なかなかに期待されるところが多いので、なるべく多数の会員の皆様に御参会いただいて、昆虫相の精査という面でも大いに効果を上げたいと思います。

理化学器機
テープコーダー
生物・地学標本模型
昆虫採集用具
テレビ・ラジオ・真空管
島津製作所岡山県代理店
サカエ商会
倉敷市栄町（赤木病院西）電話913番

志賀製品
昆虫・植物採集用具
理化学器機
岡山市西中山下（柳川交叉点東）
永瀬教育堂
電話 4725 番

——編　集　後　記——

この間迄、霜柱の見られた畑の土にもうふくふくとしたやわらかなあたたかみが感ぜられるようになり、すぐそばの路傍にサキゴケの花がにこやかに春風を呼んでいる姿を見ると、本当に楽しくなってきます。一方試験シーズンで、かかわりのない者まで、なにかそわそわしたくなるような頃でもあるのですが……。

さて、今月も互に多忙を極める幹事、かけずりまわってやっと編集を終えました。先に企画、皆様方にお願いしました"私の現在"でございますが、顧問の先生方をはじめ、沢山の方々早速お寄せ下さいまして有難うございました。本号は頁をさいてこれの特集といたしました。愉快なものから深刻なものまで、いろいろとなかなかにぎやかでございます。ただ全員の登場ができなかったことはさびしく大変残念に思いました。アンケートの方の集計結果は会報欄にでておりますので、よくごらんになって下さい。又前々からおあずけになっていました本誌の3巻からの総目次と、新しい会員名簿も今度やっとできあがりましたので、一緒にお届けします。どうか御利用になって下さい。遅くなりましたが悪からず。

本誌の誤植の多かったことにつきましては、幹事一同真に申分けなく思っております。この欄をかりまして皆様方に御詫びいたします。今後は極力なくするよう努力したいと思います。

それから、表紙デザインを募集しましたが、御応募下さいました中から、友野氏のものが、本年の「すずむし」の表紙デザインとして選ばれました。御応募下さいました皆様方に厚く御礼申上げます。

すずむし　第7巻第1号　昭和32年3月20日　印刷
昭和32年3月21日　発行

編集兼発行者　倉敷市住吉町　岡山大学大原農業生物研究所
害虫部第二研究室内
倉敷昆虫同好会

印刷所　倉敷市花町　白洋社